

## 鶴岡市中心市街地将来ビジョン（案）に対するパブリック・コメント（意見公募）の結果

### 1 概要

(1) 募集期間

令和6年2月19日（月）から令和6年3月8日（金）まで

(2) 意見提出者

2名（意見総数4件）

### 2 いただいたご意見への対応状況

分類	対応状況	意見数
修正	ご意見の趣旨を参考にして案を修正したもの	0件
賛同	案に対して同趣旨の意見、賛同いただいたもの	0件
参考	今後の施策や事業実施にあたり参考とさせていただくもの	4件
合計		4件

### 3 意見とそれに対する市の考え方

(1) 今後の施策や事業実施にあたり参考とさせていただくもの

一連	意見番号	項目	いただいたご意見（原文）	分類	意見に対する市の考え方・対応
1	1-1	全体	<p>今回のビジョン（案）を拝見して、担当する課の意味もあるのかもしれませんが教育環境に関してのテーマが少ないように感じます。現在の市街地の中心部が周辺部に比べて賑わいが失われている原因の一つに中学校の立地が影響しているのではないのでしょうか。統合によって周辺部に立地を求めたことは無理のない事です。ただ子育て世代にとって居住の最大の関心事は小中学校への近さと思います。学校に近く道路も広く職場や日常利用の多い商業施設に簡単に車でアクセスできる周辺部が選択されるのは当然のことです。コンパクトシティを目指して中心部に様々な機能を集約させたとしても、また長期の15～20年後を見込んだ計画としても、小中学校の少ない中心部に消費力の旺盛な子育て世代の関心が向いていくのでしょうか。旧NHK跡地にマンションの新規計画があることも新たに誕生する一貫校の存在があつてのことと感じます。学校の再編程難しい課題はないはずですが、しかし今後の予測を考えれば対策は避けられないテーマでもあると思います。鶴岡の特徴の一つに教育への強いこだわりを感じていますが、仮に30年後になったとしても高校の統合も踏まえて教育機関の再配置が検討されて、中心部にも新たな中学校が生まれる事があるなら、今回のビジョンにある賑わい・居場所・観光・移動といった課題に対して大きな改善が期待される要素はないのでしょうか。こどもまんなかは当然としても、教育まんなかを加速させる未来の鶴岡市が市街地観光にとっても魅力的な街に映るはずですが、市街地観光は鶴岡市民の日常生活にある優れている部分を、見たり触れたりしたいとして来訪されるものになって欲しいものです。</p>	参考	<p>本市における学校配置は、子どもたちにとって望ましい教育環境を整備することを第一義とし、少子化に伴う複式学級の発生など学校の小規模化に関する課題に応じ、公平で適正な教育環境を保障する観点から、学校の統廃合も含む適正配置に取り組んできました。</p> <p>今後、学校の適正配置を考える上では、児童生徒の減少に加え、校舎等の老朽化に伴う改築の必要性、市内全中学校ブロックで導入される鶴岡型小中一貫教育の教育効果の検証などを踏まえつつ、学校の立地条件や地域の実情、保護者の意向を十分に踏まえることが重要と認識しています。</p> <p>今後、小学校、中学校の改築の必要性が生じた場合、頂いたご意見を参考に、まちづくりの観点からも今後の学校配置のあり方について、市関係課で連携し検討してまいります。</p>
2	1-2	居場所	<p>高校生らの放課後の居場所に図書館などを移転整備を検討する点ですが、場所の選定にあたっては現在の利用者の位置情報を参考にすることはあったとしても、最優先すべきは新たな図書館に期待する機能や整備の効果ではないのでしょうか。近年は各自治体で様々な価値観を持つ図書館が整備されています。それらを参考にしながら、高校生らの放課後の時間を有効に活用してもらえる計画を期待します。私としては明石市が整備したような駅周辺の商業施設に設置した例に強い関心があります。図書館が自宅や学校から遠いので利用しないとか、読書自体にあまり興味がないといったアンケート結果からも高校生らが期待する図書館の機能について深い検討が必要ではないのでしょうか。放課後用に新たに行政で無料の学習スペースを準備してあげるよりも、市民が便利にアクセスできる駅周辺などの場所に図書館や中央公民館などの社会教育施設を集約させて、高校生らがもともと関心のある商業施設などとも隣接させるといった手法です。図書館で送り迎えを待ちながら友達と交流を楽しむ高校生がいて十分ではありますが、それにとどまらずに商業施設に友達と遊びに出掛けたつもりが、思いがけず図書館で本を借りてきたり中央公民館の市民活動やイベントに顔を出したりする高校生らが増えてくることに期待したいです。先日にはJR東日本と日本郵政が</p>	参考	<p>図書館整備につきましては、新年度に検討会議を立ち上げ、有識者のアドバイスのもと、令和6年度は基本構想、7年度には基本計画を策定する予定です。また、検討会議のほかに、子どもをはじめ、様々な立場の市民の意見を透明性のある開かれた場でお聞きする機会を設けたいと考えております。いただいたご意見は来年以降の検討の中で参考とさせていただきます。</p>

一連	意見番号	項目	いただいたご意見（原文）	分類	意見に対する市の考え方・対応
			地域課題解決のために提携する報道がありました。JR鶴岡駅と鶴岡郵便局が一体となって連携するとか、NTT東日本の旧電話局の設備を使つての新事業の計画など、予想もしなかった事が今後鶴岡でも起こる可能性があります。従来の手法に留まらない、今後の市民が最も利用とアクセスのしやすい整備の検討を期待します。		
3	2-1	居場所	<p>課題1 人流データを踏まえた公共施設の整備に関する検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の居場所づくりも大事だが、勤労世代の居場所こそ、大いに不足していると感じている。図書館も致道ライブラリーも開館時間が短く、現役世代がスキルアップや学びなおしをする施設は、平日の勤務後は閉館まで1時間も満たない状態である。ハード面の整備よりもまずはハードルの低いソフト面の運営を検討して欲しい。酒田市図書館は21時・東北大学附属図書館は22時まで開館している。夜間の大人の交流場所が飲食や居酒屋・運動施設だけではない。夜まで営業の市民活動支援センターのような施設が欲しい。居場所づくりの調査なら、コミセンや点在している公民館の活用実態や老朽具合も調査対象に含めて欲しい。</li> <li>・人流データ調査時間帯が短いのではないかと感じている。世代によって活動時間帯が違うので、6時～22時までのデータも入手の上各課題を検討してもいいのではないか。</li> <li>・事情はわからないが、都市計画の観点から、酒井忠勝の仮御殿（高畑御殿）跡地は血税を注いでも市が取得しグランドデザインに活用して欲しかった。（例：図書館新設の候補地）急激な区画開発が難しい中心市街地区域のため、他にも本来は多少無理をしても取得した方がよい土地などが存在するのであれば、取得に向けた検討を行い中長期的に運用して欲しい。</li> </ul>	参考	<p>全ての市民にとっての居場所づくりは中心市街地の重要なテーマであり、新図書館など、人がつながる場となる施設の整備のニーズが高まっているものと考えております。</p> <p>図書館整備につきましては、新年度に検討会議を立ち上げ、有識者のアドバイスのもと、令和6年度は基本構想、7年度には基本計画を策定する予定です。</p> <p>勤労世代の居場所づくり等については、市民対話や効果的な調査・分析を行い、中心市街地活性化基本計画策定の際の参考といたします。</p>
4	1-3	移動	<p>公共交通の活性化のために新たに市内循環路線を加えて頂いたことは大きな刺激になっていると思います。ただ従来からある郊外路線と循環バスの連携が十分かについては疑問があります。循環バスには高齢者や免許返納者らで市街地に居住の方々の移動を応援する意味合いを強く感じますが、郊外に住む市民や観光客などが利用するにはまだ改善の余地を感じます。自宅から近い本数の少ないバス停と、少し離れている運行本数の多いバス停では、利用者は遠いバス停でも歩いてくれる事があります。効果的なバス停に多くの利用者が集まってこそ公共交通の有効な活用法ではないでしょうか。循環バスはどちらかといえば通常の路線バスで対応しきれないバス停を回るようにコース設定されているように感じます。高齢者対応と理解しますが、地域の中に本数の良く止まるバス停を作ることが利用者増加に繋がらないでしょうか。例を挙げれば、サウスモールミーナ・南銀座・苗津荘銀前・陽光町などは、循環バスはあまり運行しない設定になっている点です。現在は狭い道路を通るため小さな車両を使用しているとしても、より大型のバスで運行出来るように変更していきたいものです。運行時間の制約はありますが、地域で便利なバス停が明確なほど利用者には分かり易く感じます。コンパクトシティの意味でも、有効なバス停に利用者に集まってもらい頻度高く距離を少なく走る方が有効です。また高校生らが100円で通学などにバス利用できる選択肢も増やしていただきたい。エスモールから市役所前までおよそ10分です。バスハブはエスモールだけでも十分ですが、市役所前の観光プラザや文化会館などに分かり易い表示の整備があればさらに改善するのではないのでしょうか。</p>	参考	<p>令和4年10月に実施した市内循環線の再編では、高齢者をメインターゲットとし、①約300mごとにバス停を設置、②運行本数の増加、③均一料金を導入するとともに、高齢者のみの世帯が多い地域を網羅し、買い物や通院に利用しやすいように設定しております。</p> <p>自宅付近から利用したいという高齢者の声や、現行の路線との兼ね合いがあるため、当面は現在の運行形態を維持したいと考えておりますが、バスのサイズやバス停の配置、わかりやすい表示、若年層の通学利用などについては検討を継続する必要があると認識しております。</p> <p>このたび頂いた「循環バスと郊外路線の連携」や「効果的なバス停の設置」などのご意見も踏まえて、市内循環バスを核とした公共交通の利用促進に取り組むとともに、中心市街地活性化基本計画策定の際の参考といたします。</p>